

地区研修・協議会 本会議 講演 ロータリー・私の想いと学んだこと

第2750地区 パストガバナー 坂本俊雄

皆さん今日は。出会いに感謝、これが私の本日のロータリーです。

貴地区は日本を代表する地区の一つで、近藤元R I理事、一緒にシカゴで研修を受けましたパストガバナー(P DG)井上暎夫さん、同期ガバナーの新谷秀一さん、ロータリーの目的(旧綱領)の翻訳委員会で一緒でしたP DG横山守雄さん、現ガバナーの福家 宏さんが、私が現在存じ上げている方々です。貴地区の地区大会に2度、「ロータリー研究会」に2度参加致しました。

日本に外国のロータリークラブがあるのを、ご存じない新会員もおられると思います。私たち第2750地区には米国のグアムに4クラブ、北マリアナ連邦のサイパンに1クラブ、ミクロネシア連邦共和国に2クラブ、パラオ共和国に1クラブ、合計8つの外国のクラブがあります。

私がロータリーという世界的に素晴らしい組織を知ったのは、1961年(昭和36年)のことです。私はまだ医学部の6年生でした。ほとんどの会員はご存知ないことですが、国際ロータリー第52回東京国際大会が開催された記事が2日間、新聞の社会面に大きく掲載されました。敗戦後最大の国際大会で、しかも昭和天皇と皇后が出席され、天皇は「世界の永久の平和を希望します」というお言葉を述べられています。勿論、当時の池田首相や各閣僚がご夫妻で出席しました。凄い会があるものだと思います。私には将来とも無関係な国際的な組織と思っておりました。

本日の地区研修・協議会は、関係者は、よくご存知のことですが、毎年1回、地区内のすべてクラブの次期会長、幹事、主要委員会の委員長などの指導者が集まってロータリーの知識と情報の交換をする会合です。単なる研修会ではありません。R Iのテーマと方針、ガバナーの方針を理解し、クラブに持ち帰り会員に伝え共有するものです。出席者には地区とクラブの橋渡しをする重要な役目があります。端的に述べますと地区研修・協議会の主な目的は次の3つです。

- ①会員基盤の維持と増強
 - ②地元や外国の地域社会で、その地域に即したプロジェクトを実行し、成功できるようにすること。このプロジェクトは手続要覧のロータリーの奉仕プログラムを参照してください。
 - ③これらのプログラムへの参加と寄付金を通じて、ロータリー財団を支援すること
- この3点を通して次年度「クラブ会長」は、クラブの指

導者が必要とする能力、知識、やる気を起こすようにしなければなりません。従いまして次年度クラブ会長の責務は非常に重いのです。

さて地区研修・協議会の解説は以上で終わってもよいものです。ですがこの地区研修・協議会を実施するに当たって参加者はロータリーの基本である次のことを認識していなければなりません。

まずロータリアンに最も重要なこと、すなわち「ロータリーの目的」、「四つのテスト」、「R I戦略計画とクラブ戦略計画」、「中核的価値観」すなわち奉仕・親睦・多様性・高潔性・リーダーシップを理解し、自分のものにしていなければなりません。そして中核的価値観はロータリアンになったときから、一時も忘れてはならず、常に心がけ、常に学んで、新会員と世の中に知らしめていくロータリアンの遺伝子です。

「ロータリーの目的」の第4項が原文と翻訳が異なっています。恐らく原文がいずれ改正されるように思います。また重要なこととして「ロータリーの標語」は四つあります。公式標語である第1標語“Service Above Self”=超我の奉仕、第2標語の“One Profits Most Who Serves Best”=最も奉仕するもの最も多く報われる、財団標語“Doing Good in the World”=世界でよいことをしよう、ローターアクトの標語“Fellowship Through Service”=奉仕を通じての親睦の四つです。

1911年にはポール・ハリスの重要な言葉が残されています。それはToleration=寛容です。更に“What is the philosophy of Rotary, as you understand it?”=あなたが理解するロータリーの哲学は何ですか。それと「ロータリーは変化する者が必要だ」、これがポール・ハリス、いやロータリアンの真髄だと思っています。そして1923年と1992年にロータリーの社会奉仕に関する声明が出されています。ロータリアン一人ひとりの個人生活、事業生活、社会生活に「奉仕の理念」を適用することを奨励、育成することであり、社会奉仕は「超我の奉仕」を実証する機会であると述べられています。ロータリーの基本の一つは「人生哲学」であるとも記されています。この哲学が「超我の奉仕」であり、この哲学は「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」という実践的な倫理原則に基づくものです。

余談になりますが、私が奉仕を受けたのは小学生のときです。満州とソビエトとの国境の黒龍江に近い街に住んでいました。1945年(昭和20年)8月9日の真夜中にソビエト軍は戦車5000両、航空機5000機、175万の大軍

が満州、北朝鮮、樺太に分散して攻め込んで来たのです。私たちは南に避難を始めました。ソ連兵や、かつて支配していた中国人からの略奪に遭い、食糧がありません。妹は餓死し私たちは痩せて肋骨がゴリゴリ出ていました。1年2カ月後に佐世保港に着き、収容所で数日暮らして母親の田舎へ向いましたが、夕方になり乗り換えの列車がなく引揚げ援護局で教えてもらったお寺を訪ねました。和尚様に「どうぞ、どうぞ」と広間に上げて頂き、白米のご飯とお風呂にも入れたのです。一生忘れません。皆さんの奉仕を受けた方は、その奉仕を忘れないでしょう。何気なく行っている奉仕ですが受けた方は心から感謝しているのです。

第2750地区と第2580地区の合同奉仕活動「バギオ基金」についてお話いたします。フィリッピン島のルソン島の南端にあるバギオ市は、第2次世界大戦で日本軍と米軍の激戦地になり、敗戦が近づいたとき現地の人々を虐殺してしまいました。約2万人の日本人が豊かに暮らしていたそうですが、家族とともに日本軍について山中に逃げ込み、残った日本人は殺されてしまいました。シスター海野さんが現地の教会で山中から獣に近い生活の日本人孤児を一人ひとり探し出して修道院で育てていました。このこと知ったロータリアンが自クラブから資金を集め、シスター海野さんに送っていたのが「バギオ基金」創設になったのです。1981年のことです。現在までフィリッピンの学生3500人近くに奨学金を授与しています（「ロータリー友」2014年5月号を参照してください）。

私たちの第2750地区全体で東京都立高校生のインターンシップを行っています。毎年1000人近い高校生を3～5日、ロータリアンの職場で研修させます。この事業に関わっています学校の先生、父兄、ロータリアンは毎年1万人を超えているでしょう。父親や校長先生から手紙が来ます。息子が娘が生徒が、挨拶が出来るようになり、父や母がロータリアンの職場教育で学んだことを通じて息子や娘と親子の会話ができるようになったという喜びの内容です。この事業に厚労省から表彰を受けました。

私たちのクラブは、最近、八王子駅伝に参加しています。大学生、高校生、一般成人に混じって45～66歳の会員が必死に走っています。初めは韓国からの米山奨学生にもチームに入ってもらいやっと1チームが出来ました。今は3チーム（12人）です。R平和フェローの女性チーム、福島の被災地の高校生を駅伝に招待しています。以上述べましたことは、最初はたった一人の会員が提案

したものが実を結んだものです。最初は「そんな事」と反対者が多いのですが、2人、3人と賛成者が増え、クラブの戦略計画の活動になったものです。

最後に私が11年間支援していたR平和フェローの奨学生が東京オリンピック誘致に参加していたことです。彼に感心したことがあります。彼がロータリーからは僅かな支援金で、日本の高校生を北京オリンピックに連れて行き、中国の高校生とバスケットの交流をさせました。また日本の学生が、まだ充分に使えるバスケットのユニフォームや靴を捨ててしまいます。それらをパプアニューギニアに持って行ったり、ロンドンオリンピックには、彼が航空代を銀行から借金して、石巻の小学生と中学生5人を連れて行っていたのです。私も彼のお陰でロータリーのI serveが出来たと思っています。

「ロータリーは一日ではならず」ということです。本日参加された方、「あなたはロータリーの財産」です。またロータリーは自ら探求して自分やクラブができる奉仕を見つけ出すことです。奉仕の例は「ロータリーの友」の毎月号に掲載されていますので、参考にしてください。

本日は貴地区研修・協議会に講師としてお呼び頂き有難うございました。今後の皆様のご健康と貴地区のますますのご発展を祈願しております。